

連続シンポ「日本メディアは世界の非常識 —安倍政治とキシャクラフ」第2弾 自主ゼミ・ジャーナリズム講座特別企画

基調講演：「私的運動史から見た日本のメディア」
講師：中山千夏さん(作家)

第2部 討論

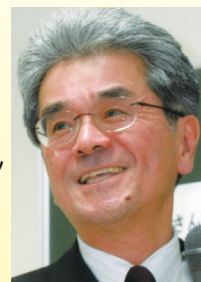
パネリスト：中山千夏さん／学生代表／下記3名



山際永三さん
(映画監督、
人権と報道・連絡会
事務局長)



山下幸夫さん
(東京弁護士会、
特定秘密保護法
裁判弁護団)



浅野健一さん
(同大大学院教授＝
地位確認訴訟中、
元共同通信記者)

安倍晋三首相はテレビ局を停波で威嚇し、新聞社幹部と会食を重ねるなどして報道界を統制し、オバマ米大統領の広島訪問で原爆慰霊碑の前でオバマ氏と撮った写真を宣伝に使い7月の参院選で圧勝した。内閣改造では日本会議メンバーを重用し、腹心の靖国反動派、稲田朋美氏を防衛相に任命。電通を使って2億余円をばらまき、東電福島原発「事件」を「アンダーコントロール」とウソをついて五輪を誘致し、リオ五輪の閉会式で道化師まで演じた。

大分県警が別府市内にある参院選の野党候補事務所があった建物敷地内に隠しカメラを設置し、沖縄県東村高江では警視庁などの機動隊を動員してヘリパッド建設に反対する住民を弾圧し、取材中の沖縄二紙の記者を暴力的に排除した。安倍政権は、過去に3回廃案となっている共謀罪の要件を変えて「テロ等組織犯罪準備罪」を新設する組織的犯罪処罰法改「正」案を9月26日召集の臨時国会に提出しようとしている。「戦前を取り戻す」安倍派・日本会議による“治安維持法”体制の暴走である。

本来、権力を監視すべき報道機関が官邸と電通に完全支配され、「忖度」と「自主検閲」(自主規制・委縮)による“大本営発表”報道で政権批判を怠っているために安倍自公独裁政治が続いている。日本の人民にとって安倍政権を打倒する以外に未来はない。それには国際標準のジャーナリズムを日本に創成するしかない。そのために、学生・労働者・市民は何をすべきかを秋の臨時国会召集の前夜に考えたい。

日時：9月27日(火) 午後5時30分～9時

場所：同志社大学今出川キャンパス・良心館102番教室(地下鉄今出川駅北改札から1分)

https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/imadegawa.html?ryoshinkan_building#campusmap

主催：自主ゼミ「ジャーナリズム講座」(幹事・大内健史)／「浅野先生を守る会」(代表・吉川幸祐)

「浅野教授の文春裁判を支援する会」(会長・山際永三)

9・27シンポ問い合わせ先：自主ゼミ幹事：大内健史(Mail: mr.ootake@gmail.com)

木平良史(090-7222-457)

2014年に「定年延長拒否」で同志社大学(同大)を追われた浅野健一教授の教壇復帰を求める学生有志で運営する自主ゼミ「同大・浅野健一ジャーナリズム講座」の第8回ゼミ(拡大版)として、作家の中山千夏さんを招き、講演と討論を行うシンポジウムを開催します。

シンポの第一部は中山千夏さんの講演、休憩を挟んでの第二部は中山さんの講演を受けてパネル討論。パネリストは、中山さん、山際永三さん、山下幸夫弁護士、浅野教授、学生代表。安倍官邸の言論統制、死刑、原発、ジェンダーなどについて討論します。最後に会場との質疑応答もあります。

このシンポで講演予定だったマーティン・ファクラー前NYT特派員は出席できません。第9回以降にお呼びする予定です。

